

亀山八幡宮子ども会 稲刈り体験140キロ収穫

下関



刈り取った稲を運ぶ子どもたち 20日、下関市

下関市中之町の亀山八幡宮(竹中恒彦宮司)の子ども会「亀の子会」(約50人)の稲刈り行事が20日、同市吉母の水田であり、同会の子どもや保護者ら約50人が参加した。

例年、同八幡宮の神前に供える米を同地の神田で育て、稲刈りを体験しているが、今年は夏の日照不足などの影響で出穂が10日ほど遅れているため、神田を管理する同地区の森田康資さん(73)所有の隣接の水田で行った。

子どもらは3町の田に入り、鎌で稲の根元から丁寧に刈り取っていった。「ひとめぼれ」の稲穂を約140キロ分収穫し、豊浦小4年の海田匠美君(10)は「うまく刈れた」と喜んだ。

体験の前に、3町の神田の一角に祭場を設けて秋の爽りに感謝する「抜穂祭」を実施。神田には同会の各家庭で発芽した新しい品種「イセヒカリ」を6月に植えており、今月末ごろに刈

り取って神前に供える。年末に同会で試食する。稲わらを使って正月のしめ飾りも作る。

実りの秋 苦労体感

亀山八幡宮子供会が稲刈り

下関市吉母の田んぼで20日、亀山八幡宮の子供会「亀の子会」の稲刈りがあった。児童と保護者ら約50人が参加し、黄金色のひとめぼれを鎌を使って収穫、実りの秋を実感していた。

神事「抜穂祭」を終え、子どもたちは鎌を手に田んぼ入り。慣れない手つきながら一本一本丁寧に刈り取っていった。市内の小学4年、山田宗達さん(10)

懸命に稲を刈る男の子



【西嶋正法】